

「免疫で引き起こされる病気にはどんなものがあるのでしょうか？」

山本一彦

免疫反応は本来、外来の異物に反応してそれらを排除するものですが、そのシステムに異常があるといろいろな病気が引き起こされます。少し単純化しますが、外来の抗原に対して免疫反応が過剰な状態がアレルギー性疾患で、自己の抗原に対して免疫反応が過剰な状態が自己免疫疾患です。それと逆に、免疫反応が少なすぎる場合には、外来抗原、すなわち外来微生物に十分に免疫が対抗出来ませんから感染症が発症してしまいますし、自己から発生すると考えられる悪性腫瘍にも十分に対抗出来ません。また、臓器移植については、免疫システムは同じ種に対しては激しく免疫応答を起こす、という性質があり、通常の免疫応答より強い反応（拒絶反応）があります。

キーワード：アレルギー性疾患、自己免疫疾患、感染症、悪性腫瘍、臓器移植